

## 「終末の徴」

2014年11月06日

マルコによる福音書13章3節～13節。イエスがオリーブ山で神殿の方を向いて座っておられると、ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかに尋ねた。「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、そのことがすべて実現するときには、どんな徴があるのですか。」イエスは話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがそれだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけぬ。そういうことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、飢饉が起こる。これらは産みの苦しみの始まりである。あなたがたは自分のことに気をつけていなさい。あなたがたは地方法院に引き渡され、会堂で打ちたたかれる。また、わたしのために総督や王の前に立たされて、証しをすることになる。しかし、まず、福音があらゆる民に宣べ伝えられねばならない。引き渡され、連れて行かれるとき、何を言おうかと取り越し苦労をしてはならない。そのときには、教えられることを話せばよい。実は、話すのはあなたがたではなく、聖霊なのだ。兄弟は兄弟を、父は子を死に追いやり、子は親に反抗して殺すだろう。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」

主イエスと弟子たちの一行はエルサレム神殿を出てオリーブ山まで来た時、神殿が見渡せる場所に座った。弟子たちはひそかに神殿が崩壊するのはいつですか、その時にはどんな前兆が現われるのですかと尋ねた。主イエスが境内で語った神殿崩壊予告を聞いた彼らは、目の前に見える壮大で堅固な神殿が崩壊するなど考えられないことであった。もし崩壊するとすれば、それは、世の終わりの神の裁きの時であると思った。その終末はいつで、どんな徴があるのですかと聞いた訳である。主イエスは「人に惑わされないように気をつけなさい」と言われ、3つのことを語っている。① 自分がキリスト（救い主）だと言う者が現れる。いつの時代も、自分が真理だと言って、偽って人を惹きつけようとする人が出る。② 戦争のうわさや騒ぎが起こり、民と民、国と国とが敵対し合う。人類史の中で戦火が絶えた時代はなかった。③ 地震と飢饉が起こる。現在の日本で日々、経験している。

そのような苦難の中で、あなた方に3つのことが起こる。① あなた方は地方法院に引き渡され、会堂で鞭打たれ、総督や王の前で証言することになる。しかし、何を言おうかと取り越し苦労をすることはない。語るべきことは聖霊がお示しくださる。初代教会において、ペトロ、ステファノ、パウロたちは権威ある裁きの場で、堂々の証言をしている。彼らの知恵ではなく、聖霊が語らしめた奇跡を体験している。② 兄弟は兄弟に、父は子に、子は親に反抗して殺し合いをする。キリスト教信仰に入るために家族の諍いはしばしばのことである。③ あなた方は、主イエスのために人々から憎まれる。キリストの福音は誤解と偏見を受け、迫害される。初代教会において、経験した事柄である。

主イエスは終末の徴として、上記のようなことが起こると言い、「しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる」と語られた。終末を待つ「中間時」を生きている私たちは、この主イエスの言葉どおりの事実を生きているのではないか。中間時の今を、主イエスの愛と真実に倣う生き方を、忍耐して全うしていく。そこに、確かな救いがある。主イエスの御言葉を信じる信仰は大いなる是認という喜び、そして、事柄を相対化するユーモアである。